

平成 24 年 3 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社ネットプライスドットコム
代表者名 代表取締役社長 兼 グループ CEO 佐藤 輝英
(コード番号 3328 東証マザーズ)
問合せ先 代表取締役副社長 兼 グループ CFO 中村 浩二
電 話 03-5739-3350

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成23年10月27日に発表いたしました平成24年9月期第2四半期連結累計期間（平成23年10月1日～平成24年3月31日）及び連結通期（平成23年10月1日～平成24年9月30日）の業績予想を下記の通り修正いたしました。

記

1. 第2四半期連結累計期間業績予想値の修正（平成23年10月1日～平成24年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 6,000	百万円 100	百万円 50	百万円 0	円 銭 0.00
今回修正予想(B)	5,300	△210	△120	△180	△1,620.66
増減額(B-A)	△700	△310	△170	△180	
増減率(%)	△11.6	—	—	—	
(ご参考)前年同期実績 【平成23年9月期第2四半期連結累計期間】	5,883	144	48	△157	△1,420.32

※前年同期の数値に関しましては、変動する可能性があります。詳しくは別途リリース（監査法人による当年度監査の過程において指摘された事項に基づく過年度有価証券報告書、決算短信等の訂正に関するお知らせ）にてご案内しております。

2. 連結通期業績予想値の修正（平成23年10月1日～平成24年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	12,000	250	150	50	円 銭 450.18
今回修正予想(B)	10,500	20	70	△100	△900.36
増減額(B-A)	△1,500	△230	△80	△150	
増減率(%)	△12.5	△92.0	△53.3	—	
(ご参考)前期実績 【平成23年9月期 連結通期】	10,790	△82	△240	△76	△689.97

※前期の数値に関しましては、変動する可能性があります。詳しくは別途リリース（監査法人による当年度監査の過程において指摘された事項に基づく過年度有価証券報告書、決算短信等の訂正に関するお知らせ）にてご案内しております。

3. 平成24年9月期第2四半期連結累計期間及び連結通期業績予想の修正理由

Eコマース事業において、当初計画に対し乖離が生じ、売上高、各利益ともに当初予想を下回る見込みであります。以下、部門別に説明いたします。

①ギャザリング部門のオリジナル商品開発ならびにスマートフォンへの一層の集中

ギャザリング部門においては、昨年4月に事業モデルの転換をはかり、商品、販売、集客のそれぞれにおいて、コンセプトや形態、手法について抜本的な転換をはかりました。商品においては価格訴求偏重型から価値提案型へ、販売においては低価格・高回転から高付加価値・参加型へ、集客においてはプロモーション型マーケティングからコミュニケーション型マーケティングへと、商品ラインナップや販売方法だけではなく、事業の根本の考え方や構造にまで見直しをかけ、大きな転換を図ってまいりました。約1年が経過し、お客様の声を取り入れたオリジナル商品開発や、ユーザビリティの向上、顧客ポートフォリオマネジメントに基づく集客施策などが進んできましたが、一方で売上総利益率の改善の遅れなどの課題が残り、収益面においての当初計画から遅れが生じております。引き続き、事業構造の転換をさらに進め、黒字化を実現するためには、オリジナル商品の開発強化による商品の差別化と利益率の向上、ならびにスマートフォンによる販売・集客強化をより集中的に推進する必要があると考えております。こうした考えのもと、この度、組織体制の大幅な見直しを行い、スマートフォン専門の部署と、オリジナル商品開発・販売の専門の部署の新設を行い、上記の施策に集中できる体制の構築をいたします。また、事業モデルの転換の遅れに伴い赤字が続いていることから、この度、役員報酬のカット（役職に応じて30～10%）ならびに人員の削減（希望退職）を実施することを決定いたしました。これにより当第2四半期連結累計期間に特別退職金約30百万円が特別損失として発生すると見込んでおります。

②バリューサイクル部門の継続的集中投資

バリューサイクル部門においては、積極的な広告宣伝の実施等により、宅配買い取り事業のNo.1としての地位を固めつつあります。今年度は積極的な広告戦略・アライアンス戦略を展開し、前年度同期を大きく上回る買取実績を上げることが出来ましたが、一方で、大幅な買取需要増に対応するため、経営資源の多くを販売から買取に配分したことにより、出品が追いつかない状況となり、上期は計画を大きく下回り赤字となる見込みです。下期については経営資源の再配分を行う事で黒字化を見込み、通期でも前年度同様黒字を見込んでおりますが、前年度実績には届かず、戦略投資の成果は来期以降に反映されると見込んでおります。

③クロスボーダー部門の為替評価の会計処理修正

クロスボーダー部門においては、1月に本格的に開始した欧州（英国）での事業が、早くも初月で黒字化を達成するなど、米国事業も含め順調に推移しております。

当部門においては、米国子会社における親会社からの運転資金の外貨建て借入債務の会計処理において、過去に遡及して決算を修正する必要性が生じたため、過年度においては為替差損を、当第2四半期連結累計期間においては為替差益を合計約30百万円計上する見込みですが、あくまで現時点における概算であり、増減する可能性があります。詳細は別途リリース（監査法人による当年度監査の過程において指摘された事項に基づく過年度有価証券報告書、決算短信等の訂正に関するお知らせ）にてご案内しております。

以上

ご注意：本資料に記載されている業績予想は、本資料の日付時点において入手可能な情報による判断及び仮定を前提にしており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。